

研修会に係る実践事例



推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



品川区立台場小学校

【実践の概要】

- 8月31日（金）教員、保護者を対象に小動物の適切な飼育方法、1・2年生に行った学習の内容、人間社会と接して生きる野生動物の現状について考える研修会を行いました。



教員・保護者向け研修会

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から、ウサギの飼育方法、気を付けなければならない点について専門的なお話を伺いました。また、1・2年生の生活科の授業で使った映像資料を基に、授業の中で、押さえておきたい飼育方法のポイントを聞くことができました。
- 知床半島に住む野生のクマと人間の共存についてのお話をいただきました。「人間が不用意に食べ物を与えたことで、人間に慣れ、人間の居住区に出没するようになり、最後は危険であると判断され射殺されてしまうといった事件が後を絶たない」ということから、野生動物と人間の共存、生命の尊重について考えさせられました。また、この話は、2月に1年生から3年生の児童、保護者にもして頂きました。

【教員の反応】

- 飼育委員の担当になったとき、児童にどのようなことを注意し、活動をさせたらよいのか、知ることができました。
- 1・2年生の生活科において、ウサギの生体や児童にウサギを触らせる際の児童への指導のポイントを理解することができました。
- 野生動物と人間の共存については、人間の不用意な行動が野生のクマにとっても、人間にとっても、悲劇を生むことになることを児童に伝えていく必要があると考えました。



国立市立国立第二小学校

【実践の概要】

- 飼育委員会の子供を対象に指導・助言をしてもらう際に、教員も同席して飼育方法や気を付けるべきことを教えてもらいました。また、教員を対象に動物飼育について実践的な話をしてもらいました。



獣医師に飼育の仕方や注意点を説明してもらいました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師との関係が深まったことで、ウサギの健康管理や環境整備について相談したり、何か異常があったときに対応して頂いたり、連携体制が一層強くなりました。

【教員の反応】

- これまで気にかけていなかった動物の管理方法について改めて考えさせられ、新たな対策を講じました。
- 夏の暑いときには、職員室にウサギを避難させ、面倒をみるようになりました。
- ウサギの飼育などを通して「命の大切さ」を考え、動物の命を尊重し大事にすること、ひいてはそれを投影して「自分の命の大切さ」を実感させる指導をしました。



武蔵村山市立第一小学校

【実践の概要】

- 8月の長期休業中に、学校担当獣医師を招いて教職員研修会を実施し、学校での飼育の基本姿勢と動物飼育の良さ、動物の五つの自由について学びました。



獣医師を招いての教職員研修会

動物の五つの自由（The Five Freedoms for Animal）

- （1）飢えや乾きからの自由
- （2）不快からの自由
- （3）痛み、外傷や病気からの自由
- （4）本来の行動する自由
- （5）恐怖や苦痛からの自由

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師に定期的に学校を訪問してもらえることから飼育に関する不安なことは、すぐに対応してもらえる安心感があります。また、日常的な飼育活動に、学校担当獣医師からの助言があることで保護者からの信頼を得られます。アレルギーの問題や感染症などに対しても、心強いものがあります。



獣医師からの指導・助言

【教員の反応】

- 動物は好きだが、日常の教育活動に阻まれ、学級で飼育している動物に目が行き届いていない状況にあることを再認識している教員もいました。
- 児童のためにも、安全で清潔な飼育環境の中で、飼育活動をすることが、児童の豊かな心の成長にも欠かせないことを学んでいました。
- 年間を通して、各学年の中で学校担当獣医師を招いての授業を実施することで、教員も児童とともに学ぶ機会になることが大変有効と考えています。



獣医師からの指導・助言